

## あ と が き

昨年、平成一年はJENDL-3完成の年でした。従って、昨年までのシグマ委員会と核データコミュニティには、内側に向かい、内に籠もって、ひたすら完成を急ぐ事が求められて来ました。そして、将来的にはJENDL-4の計画等が具体化してくるにしても、ここ暫くは、JENDL-3と言う豊かな財産をどう有効に活用して行くかが問われる、言うならば“財テク”の時代だと思います。その為には、核データコミュニティは今度はもう一度外側に向い、これまでの成果をより多くの人々に認めて貰い、きめの細かいフォローをして行く事が必要でしょう。発行部数500に達する本誌は、そのための有力なメディアに成り得るものと思います。

JENDL-3の作成が佳境に有ったころ、もう五年くらい経つでしょうか、当時の主査であった原田吉之助さんが、活動の一つのピークにあったシグマ委員会を評して、“咲く花の匂うが如く”，いま盛りだな、とおっしゃったのを時々思い出します。その時とは別の意味で、これからの核データコミュニティの活躍の場を、本誌を通じて模索して行けたらと思います。

(吉田 正)

### 編集委員

中川庸雄(委員長, 原研), 浅見哲夫(NEDAC), 喜多尾憲助(放医研),  
柴田恵一(原研), 高野秀機(原研), 吉田 正(東芝)

